



## 平成 29 年度 四天王寺中学校 入学試験問題

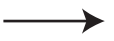
# 「講評と対策」印刷一部誤りのお詫びと訂正について

平成 29 年度 四天王寺中学校 入学試験問題「講評と対策」の 6 ページに掲載いたしました国語問題文に誤りがありました。

受験生の皆さま並びに関係者の皆さまにご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫びし、訂正いたします。

### 《誤》

でも、今はなんてことはない。こんなに、そばにいないのに、ちがう。こんなに、そばにいないからだ。  
「お父さん、泣いているの？」  
「泣いているわけないだろう。」  
「でもさっきから鼻すすってるよ。」  
「お父さん花粉症なんだよ！」  
「ちがう、とふさだしたのはお母さんだった。つられてわたしもよっつ笑うと、お父さんはちもも言いがらゆっくりと腕を下ろした。  
静かな道の上、むきゅつとひとつになっていたかたまりが解けていく。  
お父さんは涙目で、ちよつと入ツの悪そうな顔。お母さんは必死で笑いをこらえ顔をしている。そしてふたりともとても優しい表情になって、いっしょにわたしを見た。  
「帰ろう、星」  
片手ずつのばされたふたつの手のひら。小さいころを思い出す。出かけるときはいっただつてうして、わたしは大きなたりにさままれて歩いてきた。世界で一番しあわせなのは自分だつて、リタガいもしなかったあのとき。大好きなふたりの間、そが自分だけにゆめされた、特別な場所、そが世界の中心なんだと、心の底から信じていた。  
そうじやないと今は知っている。世界はもつと広くて、きたなくて、不確かなものばかりで、自分はいつだってはしつこの方にまぎれている。  
でも、変わり続けるがらつながら続けるものもある。わたしがわたしであるように。  
姿が変わって心が変わっても、それだけは変わらない確かなもの。  
泣きだつたときと同じだ。わたしの手が成長しても、つないだ手はやっぱり大きくて、それでいて温かい。安心できるぬくもり。心から信頼できる場所。大切な、家族のいる場所だ。  
寂しく帰ってから、お父さんとお母さんにこれまで思っていたことを少しずつ話し。いつからかみんな、癒されたいのはただ一人。クララの父親が留守の間の家を取り仕切る執事のロッチンマイヤー夫人。彼女は、礼儀作法を始めた教養を待っている熊本の知識人の象徴です。  
しかし、ハイジは都会になじめず病気になるアルムへともどります。そして今度はクララ以下、ハイジに魅せられた都会人たちが次々と追いかけつけてきます。クララは自然の中へ歩いて帰るようになり、クララの父親はハイジの後ろだてになることを約束し、自然と無垢な子どもたちの大勝利で物語は閉じられます。が、よくよく振り返ると、アルムでハイジが修得できなかった字を覚えるのは、都会のことです。自然は最高！でありつ、勉強という部分では子どもを野に放たずしつかりつがまえてい其子どもと同じようにテレビを見ている親にとって、なんの問題もなく、親子で日曜日の夕食時間に笑し



### 《正》

でも、今はなんてことはない。こんなに、そばにいないのに、ちがう。こんなに、そばにいないからだ。  
「お父さん、泣いているの？」  
「泣いているわけないだろう。」  
「でもさっきから鼻すすってるよ。」  
「お父さん花粉症なんだよ！」  
「ちがう、とふさだしたのはお母さんだった。つられてわたしもよっつ笑うと、お父さんはちもも言いがらゆっくりと腕を下ろした。  
静かな道の上、むきゅつとひとつになっていたかたまりが解けていく。  
お父さんは涙目で、ちよつと入ツの悪そうな顔。お母さんは必死で笑いをこらえ顔をしている。そしてふたりともとても優しい表情になって、いっしょにわたしを見た。  
「帰ろう、星」  
片手ずつのばされたふたつの手のひら。小さいころを思い出す。出かけるときはいっただつてうして、わたしは大きなたりにさままれて歩いてきた。世界で一番しあわせなのは自分だつて、リタガいもしなかったあのとき。大好きなふたりの間、そが自分だけにゆめされた、特別な場所、そが世界の中心なんだと、心の底から信じていた。  
そうじやないと今は知っている。世界はもつと広くて、きたなくて、不確かなものばかりで、自分はいつだってはしつこの方にまぎれている。  
でも、変わり続けるがらつながら続けるものもある。わたしがわたしであるように。  
姿が変わって心が変わっても、それだけは変わらない確かなもの。  
泣きだつたときと同じだ。わたしの手が成長しても、つないだ手はやっぱり大きくて、それでいて温かい。安心できるぬくもり。心から信頼できる場所。大切な、家族のいる場所だ。  
寂しく帰ってから、お父さんとお母さんにこれまで思っていたことを少しずつ話し。いつからかみんな、癒されたいのはただ一人。クララの父親が留守の間の家を取り仕切る執事のロッチンマイヤー夫人。彼女は、礼儀作法を始めた教養を待っている熊本の知識人の象徴です。  
しかし、ハイジは都会になじめず病気になるアルムへともどります。そして今度はクララ以下、ハイジに魅せられた都会人たちが次々と追いかけつけてきます。クララは自然の中へ歩いて帰るようになり、クララの父親はハイジの後ろだてになることを約束し、自然と無垢な子どもたちの大勝利で物語は閉じられます。が、よくよく振り返ると、アルムでハイジが修得できなかった字を覚えるのは、都会のことです。自然は最高！でありつ、勉強という部分では子どもを野に放たずしつかりつがまえてい其子どもと同じようにテレビを見ている親にとって、なんの問題もなく、親子で日曜日の夕食時間に笑し

なお、正しい内容は、本校ホームページ「重要なお知らせ」より印刷ができます。 <http://www.shitennoji.ac.jp>